

CASE 17 3歳児

「最後まで、転がるかな？」

協力園
認定こども園
ひまわり幼稚園

(幼児の実態)
2学期終わり頃、友達と同じ遊びをするようになると、遊具を使えないことでのトラブルが多くなりました。子どもたちが好きな積木の中には、円柱のものが赤と白の2つだけ。『自分だけが使いたい』思いの子どもがいて、積木遊びを楽しめない日が続きました。そこで、保育者は、積木で色々な物を作る子どもを紹介して楽しさを伝えたり、積木で遊べなかった子どもたちの気持ちが出せるような場をもったりして、友達と楽しく遊べるように話し合ってきました。
2月下旬、子どもたちはいつものように、友達と遊びの準備をし、好きな遊びを始めます。

「こうやってみよう。」と、つぶやくA児



『友達の声、楽しそう。』と、声の方へ移動するA児



V字型の道で転がし、「これ、落ちたらダメー。」と、言葉にするA児



道の終わりに厚い板、その中央に薄い板を置き、最後の板を倒そうと転がしてみるA児(写真上)



傾斜をつけたり、道の両脇に板などを置いたり、厚い板の下に細長い板を置いたりして何度も試すA児(写真下)



積木遊びが好きなA児たちは、積木が沢山入ったカゴを友達と一緒に出して遊び始めました。A児は、自分が使うだけの積木を持ってきて、坂道を作って赤い円柱が転がるか試しています。A児の遊び方を真正面に座って見ているB児の後ろまで、赤い円柱が転がっていました。B児は「A君すごい！ここまで転がったよ。」と、転がってきた円柱を指さして嬉しそうに言いました。A児は円柱を遠くまで転がそうとしていたようです。

隣から「ピタゴラスイッチ♪」「ほら見て。」と、友達の楽しそうな声が聞こえてくると、A児は、赤い円柱を持ったまま、友達の作った道を見に行きました。そして、近くにあった板で、長い道を完成させると、持っていた赤い円柱を転がしました。「わー、すごい！まっすぐ行った。」と、A児が歓声を上げると、その場で遊んでいた友達2人は、A児の道につなげようと一生懸命自分の道を作っていました。それが3人の道が1本の長い道になった時、3人は交互に赤い円柱を転がし、作っては壊していく行程を何度も繰り返しました。

A児が他の友達と遊んでいる間にB児は、A児の作った道をV字型にしてみました。「A君、来てー。」

A児が転がしてみると、V字の所から円柱が転がり出てしまいました。転がり出さないよう、道の両脇に板を立てましたが、円柱は、板を倒して転がってしまいます。A児は「これ、落ちたらダメー。」と、気持ち言葉を言葉にしなが、V字の片方の板を床に置き、円柱の転がる早さを調節しているように見えました。その間、B児は、色々な方法で試しているA児の様子を食い入るように見えています。A児の試行錯誤の末、なだらかな長い道になり、円柱が途中で飛び出なくなりました。

A児は、自分と違う友達の遊び方を見たり、工夫して成功した体験をしたりして、少し難しい『ドミノ倒し』を作りたいようになってきました。A児は、道の終わりに厚みのある板を、中央には薄い板を立てて、赤い円柱を転がしてみました。初めは、円柱が中央の板まで届きませんでした。そこで、道の両脇に板を立てる方法を試します。この方法では、円柱が中央の板までは転がりませんが、板を倒せずに転がり出てしまいました。

今度は、スタートの積木を高くして傾斜をつけます。円柱は、勢いよく転がり中央の板を倒しました。しかし、中央の板の長さが足りず、最後の板までは届きません。すると、A児は、最後の厚い板の下に、一回り小さい細長い板を置きました。それでも最後の板は倒れませんでした。何度も試しているA児と、それを見守るB児がいました。ここで、片付けの時間になりA児は、作った道を壊しました。今日は道の終わりまで円柱を転がすことはできませんでしたが、明日も積木遊びができることが分かっているので、納得して友達と片付けをしています。

継続して遊べる環境が用意されていると、子どもは、うまくいかない時でも、友達の遊び方に刺激を受け、必要な考えを取り入れたり、工夫したりしながら、自分の思いに近づけようとしています。子どもは、遊びの中で楽しみながら試し、思いを実現し、『また、やってみよう』とする意欲をもって、日々生活しています。この『やってみよう』の積み重ねが、少し難しいことへの挑戦意欲と、諦めずやり遂げる粘り強さの源になっていると考えます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「10の姿」

- 思考力の芽生え
- 自立心
- 言葉による伝え合い

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

事例から見られる10の育ち 自立心

A児は、B児が「A君すごい！」と認めてくれることで、更に面白いことを考えようとしている。また、A児は、好きな遊びを楽しむ中で、長い道を作りたいというイメージを実現しながら、満足感を味わっていると思われる。
自分のイメージしたことを実現できたという達成感は、『ドミノ倒し』を作りたいという、思いへ変化していった。更に、そのイメージを実現させようと様々な方法を試して成功させようとしている。
日々の遊びの中で『うまくいった』という、満足する体験を積み重ねていくことが、諦めずしようとする力になっていくと思われる。

事例から見られる10の育ち 思考力の芽生え

毎日遊ぶ中で、自分に必要な積木の数を分かって準備している。数に限りがある積木を『友達と一緒に使いたい』というA児の思いからだろう。
また、円柱を転がした時の、道の傾斜によって板を倒す力が違ってくることや、小さな物の上に大きな物を置くこと、壊れやすいことも、友達と楽しく遊びながら感じ取っていったと考える。
子どもは、友達と好きな遊びの中で、新しい考えを何度も試しながら、発見したり、気付いたりすることを楽しんでいると思われる。

自立心 環境構成のポイント

- 子どもの興味を把握し、子どもの良さが分かり合える言葉をかけたり、困りをみんなで考え合ったりしながら、友達の思いや考えに触れさせる場を提供する保育者。
- 友達の考えを認め合える仲間関係。
(友達の考えがすごいと感じ、自分の道に考えを取り込む姿)
- 何度も試すことができる場や時間の確保と、遊具や材料の数や種類の準備。(長期で遊べる遊びの見通し・一人で遊ぶ～友達と一緒に遊べる遊具の選択・工夫できる遊具の準備)